

# 取扱説明書

## PHC-5型(ORC-5型)pH(ORP)調節計

### 1. 規格

	pH計	ORP計
型式	PHC-5	ORC-5
測定範囲	0～14pH	±700mV
測定精度	±2% (F.S)	左に同じ
記録計出力	±500μA、200Ω以下	左に同じ
警報接点	メーク接点、4回路(H1 L1 H2 L2)	左に同じ
接点容量	AC250V 5A	左に同じ
電源	AC100V、50Hz/60Hz	左に同じ
消費電力	10VA以下	左に同じ
重量	4.5Kg	左に同じ
周囲温度	0～50℃	左に同じ
相対湿度	80%以下	左に同じ

### 2. 本器の設置場所及び取付方法

本器はなるべく次のようなところに設置して下さい。

- 温度変化の少ない場所(周囲温度0～50℃)
- 腐蝕性のガスのないところ
- 乾燥したところ
- 振動のないところ
- モーター等の電気機器より離れているところ

取付方法(第3図参照)

パネル裏面より添付の取付金具により、パネルに固定します。

### 3. 電気配線(第2図参照)

GLASS	ガラス電極(金属電極)
R	比較電極
E	アース電極があるときはアース電極

T1 - T2

温度補償電極があるときは温度補償電極を接続し，無いときは  
添付してある抵抗をそのまま接続しておく。

RECORD  
+ -

記録計があるときは記録計を接続し，無いときは添付してある  
抵抗をそのまま接続しておく。

接点回路は下图の通りです。

入力信号及設定位置	下限 L2	下限 L1	上限 H2	上限 H1
電源 OFF のとき				

注意 1 指示部と検出部を離れて設置するときは、専用の延長ケーブル及びコネクタボックスを使用して下さい。

2 延長ケーブルは、ポリエチレン絶縁（半透明）の芯線を使用して下さい。他の芯線を使用すると絶縁不良を起し、指示に誤差を生じます。

3 電極用のケーブルは、他の動力線と別の管で配線して下さい。

#### 4. 計器の整備運転方法

配線が完了したら次の点を再確認して下さい。

- a 結線のミスはないか。
- b 比較電極の先端のゴムキップは外してあるか。
- c 制御回路に容量以上の負荷が接続されていないか。
- d 「ALARM」のスイッチは切っているか。

以上の点検が終わったら電源を入れて、動作を確認して下さい。

- a 電源を入れて数分後たったら、チェック用押ボタンスイッチを押して下さい。そのとき指示計がチェックの赤マークの附近を指示すれば動作は正常です。チェック用の指示は、零調整用ボリュームを廻しても変化しないが、スパン調整用ボリュームを廻すと変化します。

#### 5. 標準液による校正

計器は使用する電極の特性により、多少指示が異なるため、測定前に標準液の校正を行います。

校正手順

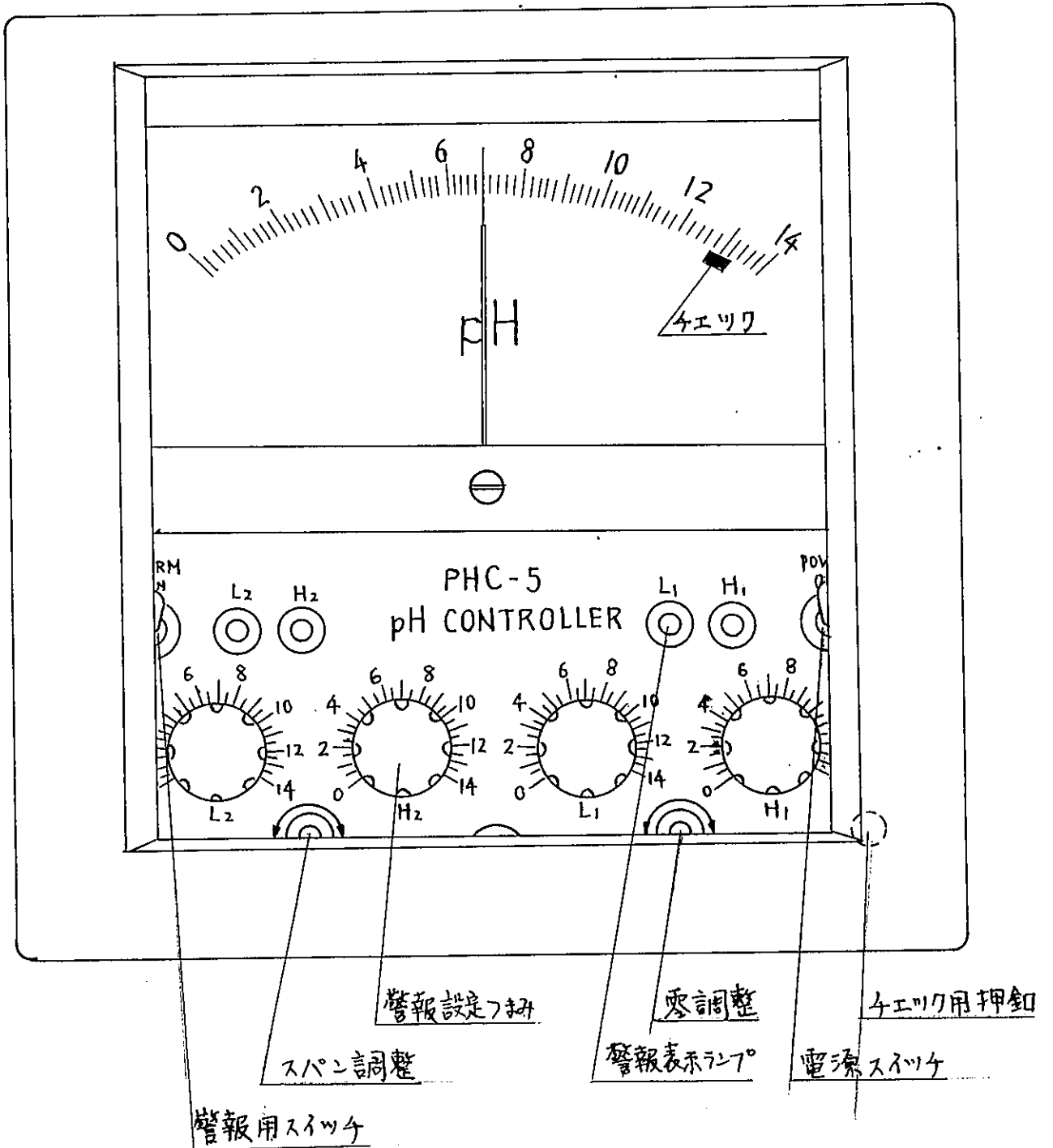
- a pH 7 の標準液に電極を入れてよくかくはんして下さい。指示が一定値に安定し、その指示が 6.8～7 附近を指示していれば、正常ですから零調整は不要です。  
若し狂っていたら、ZERO ADJ. のボリュームを廻して pH 6.9 に合せて下さい。
- b 次に pH 4（又は pH 9）の標準液に電極を入れ、指示が安定したときの pH 値が pH 4（又は pH 9.2）を指示すれば正常です。狂っていれば SPAN ADJ. のボリュームを廻して pH 4（又は pH 9.2）に合せて下さい。

#### C 注 意

(1) 標準液に電極を入れるとき、電極を純水でよく洗ってから入れて下さい。

(2) 標準液の校正を行うときは「ALARM」のスイッチを切っておいて下さい。

第1図前面図



第2图 背面图

